

シルク・ドゥ・ソレイユに挑戦中!

高校時代に全国レベルの成績を残した後、今や男子新体操の第一人者となつた堀孝輔さん(20年スポ健卒)に影響を受けて同志社へ。大学3年時に全日本個人総合を制覇後、休学して米国外スベガスに移住。世界的に著名なエンターテインメント集団「シルク・ドゥ・ソレイユ」で活躍中のスポ健生を紹介...

日本王者の自信とプライドが千載一遇のチャンスに呼ぶ

アクロバティックな宙返りに代表されるタンピングやジャグリング(手具操作)を行い、音楽に合わせたダンスによって身体表現をする日本の男子新体操は、日本発祥の競技だ。国際化は未だ途上だが、逆に言えば選手たちは世界で唯一無二の存在と言える。その独自性に着目したのが、あのシルク・ドゥ・ソレイユだった。現在東本さんが出演するショー「マイケル・ジャクソン ONE」は、2013年の開設と...



【ひがしもと・ゆうや】 広陵高等学校出身。スポーツ健康科学部4年次生。小学校2年生の頃に新体操を始める。大学入学後の主な成績は、第73回全日本学生新体操選手権大会男子個人総合準優勝、第74回同選手権大会男子個人総合3位、第75回全日本新体操選手権大会男子個人総合準優勝、2023年には第76回全日本新体操選手権大会男子個人総合優勝。2024年4月に渡米し、現在ラスベガスでシルク・ドゥ・ソレイユの舞台「マイケル・ジャクソン ONE」に出演中。

同時に、初めて日本の男子新体操からパフォーマーを募集。10周年を機に内容を刷新するため、昨年、新メンバーの募集が行われた。卒業後は一般企業に就職し、自身のスキルを何らかの道で生かしたいと考えていた東本さん。22年の全日本選手権を視察したシルク・ドゥ・ソレイユのキャストイングスタッフから既にスカウトを受けていたが、当時はあくまでも選択肢の一つという認識だった。だが昨年、実際の募集を知って心が動いた。

悩む中で初めてシルク・ドゥ・ソレイユの移動公演「アレグリア」を観劇。世界トップレベルのパフォーマーに感動し、挑戦を決意した。競技記録や得意のタンピングを中心とした演技の動画を送り、見事にオーディションを突破。「十数年続けてきた新体操で培った自信とプライドが、やはり私にはあったのだと思います。このチャンスを選べば他の誰かがメンバーの座に就き、もう自分はその間に出来ない。何かの縁だ、今しかないと思いました」

後悔するならば、やってから後悔したい。休学を決断し、渡米前の半年間は、英語の勉強と体操部の後輩たちへの指導に力を注いだ。「指導をお願いしてい

た恩師が昨年亡くなり、自分も急に部活から抜けてしまうことになる。後輩たちに少しでも自分の技術を伝えなければという責任を強く感じました」。

プロ意識の成長と共に夢も大きく

渡米は今年4月。世界一のエンターテインメント都市ラスベガスで一人暮らしをしながら、ホテルの常設シアターで行われる1日2回の公演を務める。週2回休演日はあるが、厳しいショービジネスの世界を生き抜くため、時間

ができれば練習に余念のない毎日だ。出演中のショーは、現在ラスベガスで上演中のシルク・ドゥ・ソレイユの舞台の中でも1、2を争う人気作という。東本さんはメインアクトとして「スムースクリミナル」を演じており、「スリラー」にも出演している。男子新体操で用いる手具を使い、世界中から訪れる観客に新体操の真髄を披露する。器械体操にはない大技が決まれば大きな歓声が沸く。どんなに疲れていても、



メイクからコスチュームまで全身で夢を演出

それがエネルギーになる。トランポリンにはリオ五輪の金メダリストが出演するなど、世界水準のパフォーマーたちから吸収するものも大きい。競技時代から大きく変化した点が二つあるという。一つは表現に

挑戦を受け入れ、人生の先輩として相談に乗ってくれた両親には心から感謝している。日本からの応援を支えにして目標も育ってきた。今のショーで活躍できる場面を増やし、得意のアクロバット技を磨いて、いずれは他のショーや世界ツアーへの参加も夢に見ている。現在の契約は2025年10月まで。それ以降は未定だが、大学卒業と、もうしばらくのアメリカでの活動を視野に入れながら、まばゆいライトと喝采を浴びる日々が続く。

Academic

成績通知書の確認方法

同封しています成績通知書の確認方法についてお知らせいたします。2017年度以前生と2018年度以降生ではカリキュラムが異なります。学年によって一部表記が異なりますが、2023年度生を例に説明いたします。

Table with columns: 履修年度, 期間, 科目名(クラス), 単位, 成績, 担当者名. It lists various courses and grades for the student.

2024年度春学期終了時点での各学年の修得単位ならびにGPAの平均値
1年次生: 20.0単位 GPA 2.54
2年次生: 57.5単位 GPA 2.50
3年次生: 92.3単位 GPA 2.50
4年次生: 116.4単位 GPA 2.56

- 1 (評価判定基準) A: 4.0 (特に優れた成績を示した) B: 3.0 (優れた成績を示した) C: 2.0 (妥当と認められる成績を示した) D: 1.0 (合格と認められる最低限度の成績を示した) F: 0.0 (合格と認められるに足る成績を示さなかった)
2 それぞれの科目を履修した年度です。
3 現在登録中の科目です。(成績評価欄は空欄になっています)
4 1ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと本人が判断して、履修を中止した科目です。この場合GPAには算入されません。
5 合格評価で書き換えられた不合格評価であることを示します。F評価を取得した科目で、再履修し、D以上の評価を得ることができれば、最初のF評価はGPAに算入されません。
6 単位修得表内の必修科目欄(表左上部の3項目)について、「卒業研究A・B」については修得状況を独立して記載するとともに、「必修 演習科目」にも含めて記載します。(2017年度以前生については、必修基礎科目として修得した単位の中にスポーツ・パフォーマンス1の単位も含めて記載しています。)
7 選択科目B群で卒業に必要な22単位のうち、16単位を取得している。
8 在学期間中に修得した単位数を示します。卒業に必要な124単位のうち、54単位を取得している。
9 在学期間中に修得したGPAを示します。
10 本人住所の変更は、学生がDUETを通じて行うことができます。
11 父母住所の変更は、学生が学部事務室の窓口へ届け出てください。

※上記の成績通知書はこの誌面用に作成したものです。実際のものとはサイズ等異なります。

2024教員父母連絡会 総会レポート



ONLINE

コロナ禍を経て 通常に戻りつつある大学行事

5月25日(土)、2024年度教員父母連絡会総会が開催されました。コロナ以降は基本的にオンライン形式での開催となっており、今回もZoomを通じて約100名が視聴しました。

総会は15時にスタート。金子功会長の挨拶に続き、竹田正樹学部長が挨拶と学部の近況報告を行いました。特に生成AIの進化や円安など、学生を取り巻く社会環境が急速に変化する中で、本学部は多様なプログラムを展開し、より良い教育環境の構築に努めている



金子功前会長(2023年度会長、2024年度監事)



平石祥吉会長(2024年度新会長)

ことを説明され、ご父母に理解を求めました。その後は議長を選出し、2023年度事業報告に続いて議事に移行。23年度決算および監事報告、24年度事業計画、同予算、同役員の選出が審議され、原案通り承認されました。

23年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行しました。20年度から実施していた「新型コロナウイルス感染症に係る奨学金」も、23年度が最後の募集となりました。一方で4月の新入生父母説明会が4年ぶりに行われました。卒業式後の謝恩会も昨年に続いてゼミ単位で開催するなど、コロナ禍での種々の制限が緩和されていっ

た1年でもありました。またスポーツ健康科学部が選考する各種奨学金のうち、教員父母連絡会からは13名の学生に1名あたり5万円を給付しました。なお24年度の教員父母連絡会会長には、平石祥吉氏が選出されました。新会長を中心に、今年度も皆様のご理解とご協力をお願いいたします。総会終了後は本学部に在籍する25名の教員のうち、19名が自己紹介を行いました。



竹田正樹学部長(2024年度副会長、教授)

カリキュラムの特色と アフターコロナの 新授業形態紹介など

続いて教務主任の高倉久志准教授より「スポーツ健康科学部で学ぶこと」と題して、カリキュラムの特色、卒業要件、学業成績の評価、取得可能な資格などの説明が行われました。まずスポーツ健康科学とは、予防医

学からスポーツ指導法、行政・社会学までをカバーする文理融合型の応用総合科学です。その中で本学部では、健康の維持増進、スポーツの社会的発展に寄与貢献できる多様な人材の育成を目指しています。カリキュラムの特色は4つあり、その1つが、健康科学、トレーニング科学、スポーツ・マネジメントという3つの学修領域です。2点目の特色は、2年次の必修科目「基礎実習」および選択科目「応用演習」による、幅広い実験・実習能力の獲得。3点目の特色は、1年次の春学期に大での基本的な学び方を身につけるファースト・イヤー・セミナーと、基礎実習などを踏まえた上で3・4年次で行う少人数制の演習(ゼミ)です。4点目には学部専門科目の一部共有化を挙げ、生命医科学部や心理学部の専門科目の一部を共有することにより、医学・健康分野関連科目の充実を図るとい、総合大学のメリットを活かした取り組みが紹介されました。

アフターコロナの授業はほぼ対面式に戻っていますが、24年度より全学で新しい授業形態が導入されました。大では15週で1つの授業科目を履修しますが、新しい学年暦では、この15週分の授業を対面で実施される13週の通常授業と2週分のオンデマンド授業に分けて受講することを基本としました。これによって夏季休暇や春休みの期間が長くなり、フィールドワークや各種実習、インターンシップ、ボラン

ティア活動など新たな主体的学びの時間が創出されて、留学への参加機会の増加も期待されるという説明がありました。

卒業要件については、4年以上の在籍と124単位以上の修得が求められる点と、その内訳、学業成績を数値化するGPA制度などについて説明がありました。取得できる資格には、まず高等学校・中学校教諭一種免許状(保健体育)があり、大学院前期課程を修了すればこれを専修免許に変えられます。また他大学と連携している小学校教諭一種免許状の取得制度、その他、コーチングアシスタントやスポーツプログラマーなどの公認スポーツ指導者、健康運動指導士、バラスポーツ指導者などの案内がありました。

その後はスライドを通じて、一部のゼミの卒業研究の様子を垣間見ることができました。最後はキャンパスハラスメント相談制度についての周知と、学部公式YouTubeチャンネルの紹介も行われました。

好調な就職状況と 安全な学生生活を送るための 注意事項

引き続き学生主任の岩田昌太郎准教授から、本学部の学生支援等について報告が行われました。最初に京田辺校地を紹介しながら、スポーツ健康科学部では大学院生を含めて約1000人

が在籍中であることを報告。次に年間スケジュールの詳細を説明し、ご父母には学園祭などの機会を利用したキャンパス訪問の呼びかけも行われました。奨学金については、日本学生支援機構や地方公共団体などによる経済支援奨学金と、学業・スポーツの奨励を目的とした奨励奨学金を紹介。必要な場合は大学のウェブサイトで確認いただくようお願いがありました。



岩田昌太郎准教授(2024年度会計)

本学部卒業生の就職状況については、22年度の就職希望者の就職率は100%であり、他は公務員、大学院などの道に進んでいることを紹介。業種別ではメーカー・金融・流通が多く、その他サービス業、マスコミ・情報など多岐にわたることが報告されました。

最後は学生生活での諸注意に触れ、近年特に注意喚起を行なっている問題として、飲酒事故、薬物、下宿への訪問者、マルチ商法、悪質な宗教団体、

個人情報の扱いを挙げ、ご父母にも、ご子息・ご子女の生活について困り事があれば、遠慮なく大学の窓口にご相談していただくよう要望がありました。

インターンシップの改正を含め 企業の就職活動 早めの就職活動を

最後に株式会社マイナビのキャリアサポーター鶴見耕太郎様から、就活セミナーが行われました。25年の大卒者の求人倍率は1.75倍となっており、いわゆるコロナショックの後、かなり学生優位の状況になっています。ただし従業員数500名以上の大企業や金融業、サービス・情報業などは狭き門であり、準備・対策の必要性が高まります。また近年は企業側の採用手法の多様化・複雑化が進んでいるため、学生が準備すべき事も増えている現状を紹介。就活準備としては、自己分析、仕事研究、模試、模擬面接などを行なっておくことが望ましいと助言がありました。

就活全体のスケジュールとしては、学生は学部3年生および修士1年生の春から下準備を始め、政府の指針に基づけば年度終盤の3月1日から企業は採用情報を公開し、翌年度の6月1日に選考・採用を開始します。しかし、これらのスケジュールは形骸化している部分も多いということです。インターンシップについては、文部

科学省・厚生労働省・経済産業省による方針が23年より段階的に改正されています。インターンシップで得た学生の個人情報採用活動に活用できないのが原則でしたが、改正によって採用活動開始後に個人情報の転用ができるようになりました。その場合のインターンシップとは、説明会などではなく必ず就業体験を伴い、5日間以上の実施期間を満たすものであるというルール変更が行われています。また3年次でインターンシップ等に初めて参加した時期は8月が最も多く、3年次の間にインターンシップを体験した学生は85%を超え、うち9割弱は2社以上に参加したというデータも示されました。参加者を対象とした早期選考会や追加インターンシップの案内なども増加しており、就活環境の早期化にも影響を与えているということです。

企業は新卒者についてポテンシャルや人柄を重視する傾向があり、学業成績は半数ぐらいの企業がある程度考慮していること、その傾向は上場企業の方が強いという調査結果なども紹介されました。そしてご父母の皆様にはぜひ社会人として世の中や仕事の現実を俯瞰したアドバイスと、自己分析の助けとなる助言をしていただきたいというお話で締めくくられました。

今回も多くのご父母の皆様にご出席いただき、皆様のご協力によって総会が無事に終了しました。誠にありがとうございました。

最新の研究機器紹介

多点筋電計測システム
(Quattrocento, OT Bioelectronica)
若原卓先生

この装置は、筋肉が収縮するときに生じる筋活動電位(筋電図)を記録するものです。筋電図を計測するための装置にはさまざまな種類がありますが、今回導入した装置の特徴は、直径2mmの小さな電極が8mm間隔で64個も配列している点です。これによって、運動単位レベルでの解析を行うことが可能です。運動単位とは、運動ニューロン(骨格筋につながる神経細胞)とその運動ニューロンが支配する筋線維(筋肉



多点筋電計測システム



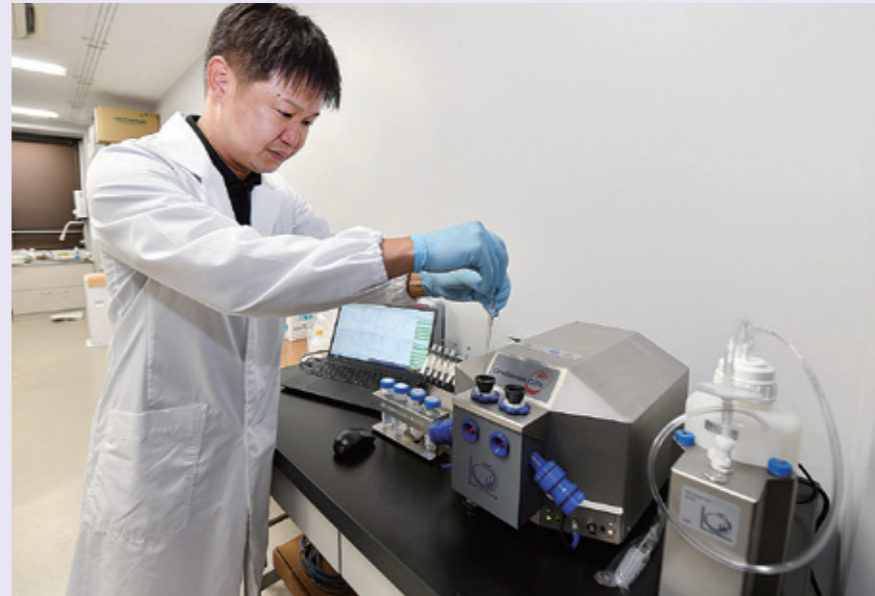
ダンベルを持ち上げるときの上腕二頭筋の筋電図を計測する様子

の細胞)をまとめたもので、運動の最小基本単位とされています。物を持つ、歩くと言った、比較的単純な運動から、高度な技術を必要とするスポーツ中の運動まで、あらゆる運動において、私たちは運動単位の活動を調節することで達成しています。そのため、身体運動の仕組みを理解するためには、運動単位の活動様相を知ることが重要になってきます。これまで、運動単位の活動を調べるためには、筋肉内にワイヤー等を挿して筋電図を記録する必要がありました。この装置では、多数の表面電極で記録した筋電図信号に特殊な数値解析を施すことで、非侵襲的(身体に害を与えず)に運動単位の活動を解析することができます。この装置は、「演習」や「卒業研究」といった授業で活用されることが期待されます。

セルフラックスアナライザ

高倉久志先生

今回は、セルフラックスアナライザ1(Oroboros社製)を紹介させていただきます。この機器は、筋肉や脂肪といった生体組織から抽出したミトコンドリアの酸素消費能力を測定できるものとなっています。決められた実験手順に従って組織からミトコンドリアを抽出すると、ミトコンドリアは組織外に出



セルフラックスアナライザを用いたミトコンドリア呼吸能力を計測する様子

ても生体内に存在していたときと同様の機能を示すので、この機器を用いてミトコンドリア機能の指標となる酸素消費能力を測定することができます。私の研究では、運動トレーニングによる組織(主に筋肉)内の遺伝子やタンパク質の量的変化を測定することによってトレーニング効果を検証しますが、今回の機器設置によって単なる量的変化のみの検証にとどまらず、機能的な変化をも捉えることができるようになりました。ミトコンドリアは酸素を利用して運動するためのエネルギーを作り出す役割を担っており、その機能はマラソンやトライアスロンといった持久的競技のパフォーマンスを決定する重要な要素の一つとなります。実際にミトコンドリアの量や機能が向上することで、持久的な競技能力が向上することも知られています。そのため、本実験機器の設置は、運動トレーニング効果の解釈に新たな発見や更なる深度をもたらしてくれるものとして期待しています。

ドイツからの留学生を紹介します

Neag Ericさん
ネアグ・エリック

私は、ドイツのテュービンゲン大学(修士課程スポーツマネジメント専攻)から交換留学生として来日しているエリックです。この度、テュービンゲン大学を代表して、同志社大学スポーツ健康科学部に留学する榮譽と幸運に恵まれました。京都の同志社大学で過ごしている日々は、素晴らしい一言に尽きます!日本には独特の文化があり、息を呑むような自然や風景、美味しい食べ物があるので、日本を訪れることは長年の夢でした。来日して以来、期待していた以上の経験をすることができました!私は日本での生活にすぐに順応することができ、とても快適です。実家から遠く離れていますが、我が家のように感じています。同志社大学は素晴らしいところです。先生も友人たちもとても楽しくて、私を歓迎し、助けてくれる人間性を持っています。このことは、私の留学生活を特に素晴らしいものにしてくれました。多くの新しい友人や先生を見つめることができ、日本的な生活様式を学ぶ、授業ではとても楽しい時間を過

しています。

古都・京都には美しい場所がたくさんあり、独特の穏やかな雰囲気があります!日本の文化の中心として、鴨川を散歩したり、祇園をぶらぶら歩いたりしながら、日常を忘れて心を休めることができるお寺や神社を、本当に楽しんでいきます。私のお気に入りのお寺は、ユニークな境内を持つ醍醐寺です。もうひとつのお気に入りの桜の季節で、京都とその周辺がすべて幻想的な光景となりました!

スポーツ健康科学部の皆さんは、私を同志社ファミリーの一員として迎えてくれ、とても温かく、いつも応援してくれて、本当にありがとうございます。このような冒険ができたことを心から感謝しています!



My name is Eric and I am a Sports Management Master exchange student from the University of Tuebingen in Germany. I have the honour and the luck to represent our university here at the faculty of Health and Sports Science of Doshisha University. My time at Doshisha and Kyoto has been nothing short of incredible, it is a truly special experience! It has been a dream of mine to visit Japan for many years, because of its unique culture, breathtaking nature and landscapes and delicious food. Since arriving, my expectations of the experience have been exceeded! I have been able to adapt quickly, and I feel very comfortable here – I feel at home, far away from my actual home.

Doshisha University is an amazing place. Whether it is the teachers or my fellow students from the classes, they have a very fun, welcoming and helping human nature. This has contributed in particular to making this a great experience for me. I was able to find many new friends and teacher mentors, learning the Japanese way of life and having a lot of fun in my classes.

Kyoto being the former imperial capital, has so many beautiful areas to offer and a very uniquely peaceful vibe! As the cultural central of Japan, I really enjoy the peacefulness of temples and shrines, where I can forget about everyday life and have a mental rest, having a walk by Kamogawa, or simply strolling around in the Gion district. My favourite temple is Daigo-Ji with its one-of-a-kind grounds. One of my highlights has been the Sakura season, where all surroundings in and around Kyoto became a magical sight to see!

Thank you to the entire faculty of Health and Sports Science for the very warm welcome, always supporting me and for making me a part of the Doshisha family. I am very grateful for being able to have this adventure!

新しく着任された先生から自己紹介

廣光 佑哉先生

2024年4月からスポーツ健康科学部の助手に着任しました。廣光佑哉（ひろみつ ゆうや）です。私は2022年に同志社大学スポーツ健康科学研究科を修了し、前年度までは同志社大学の研究開発推進機構にて特別任用助手として勤務しておりました。教員という新たな立場で、再び京田辺キャンパスの地を踏みしめることができたこと、とても嬉しく思っております。

私の専門分野はスポーツ心理学で、特にヒトの「運動学習」や「認知機能」に強い興味があります。我々ヒトは様々な経験を通して学習し、物事を理解する機能を持っています。動作を憶える方法の一例として、見て（観察して）憶える方法があります。お手本を観察しながら身体を動かすことで、段々と動作を習得・学習することが出来ます。私の研究では観察学習時の映像を学習者自らが決める場合、他者（例えば実験者や指導者）に決められる場合との学習効果の違いに焦点を当てています。



廣光佑哉先生



シールドルームでの実験風景(左)、心理学実験室での実験風景

私達が普段行っている選択も実はヒトの学習に関わっています。ヒトは選択をしない時に失敗情報を受け取ると、モチベーションや意思決定に関わる脳部位の活動が減衰します。対照的

に、選択した場合は増加することが報告されています。また、選択により運動学習を支援することも報告されています。私の研究ではこれらの選択の効果を背景に、選択により生じる観察学習のメカニズムを行動から脳神経レベルで検証し、現象の理解を目指しています。本研究を通して、将来的にはスポーツ、学校教育、そしてリハビリテーションへも役立てたいと考えております。これからどうぞよろしく願っています。

川間 羅聖先生

はじめまして。この度、2024年4月よりスポーツ健康科学部(および研究開発推進機構)の特別任用助教に着任しました川間羅聖(かわまらき)と申します。2019年に同志社大学スポーツ健康科学部を卒業し、2021年に筑波大学人間総合科学研究科(体育学専攻)の博士前期課程を修了しました。その後、2023年9月に本学スポーツ健康科学研究科の博士後期課程を修了し、博士号を取得しました。学生時代、私は陸上競技の棒高跳びを専門とし、毎日練習に励んでいました。しかし、自己ベストは5メートル手前で伸び悩み、この原因を解明するため運動生理学やトレーニング科学の世界に足を踏み入れました。研究を始めて数年後、私が伸び悩ん



川間羅聖先生

でいた原因の一つとして、感覚や経験に頼った非効率なトレーニングを行っていたことが判明しました。スポーツの世界には多くの「迷信」が存在します。例えば、「筋力トレーニングをする」と筋肉は硬くなるのでやらない方が「良い」と指導されることがありますが、実際には筋力トレーニングで筋肉が硬くなると報告した研究は1件のみで、他の研究は筋肉の硬さに変化がないと報告しています。さらに、私の近年の研究では、筋力トレーニングでもストレッチングのように筋肉を大きく長時間伸ばすことで、特定の筋肉が即時的・長期的に柔らかくなることを明らかにいたしました。このように、「実践現場で常識とされていることが科学的には違っていた」という事例は多く

あります。これらの迷信を検証し、正しい知識に変えることが私の責務であると考え、スポーツ健康科学部の学生の皆さんに科学の楽しさや重要性を伝えていけるよう尽力していければと思います。どうぞよろしく願っています。

大石 寛先生

はじめまして。2024年度より、特別任用助教として着任した大石寛(おおいし・かん)と申します。私は、大学、大学院の全課程を「同志社大学スポーツ健康科学」で過ごしました。第二の故郷で教員としてスタートできますこと、心から嬉しく思います。



大石寛先生

私はこれまで、「子どもが健やかに成長する近隣はどのような環境か」について主に研究してきました。近年、生活拠点の近隣環境が健康に影響することが示唆されています。例えば44か国を対象とした研究で、マクドナルドの店舗数と肥満率との強い相関関係が示されています。日本でも、食料品店の数が少ない近隣の高齢者は認知症発症リスクが高いこと等が明らかになっています。これらの結果より、R6年度開始の厚生労働省「健康日本21(第3次)」では、「自然に健康になれる環境づくり」や「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」等の文言が並び、国をあげて健康的なまちづくりが進むと推測されます。一方、日本で近隣環境と健康に関する知見は成人

や高齢者に偏っており、健康的なまちづくりの中で「子ども」がないがしろになると危惧し、このテーマに取り組んでいます。私は過去に、コンビニが多い近隣の子どもは肥満のオッズが高いこと、学歴が低い近隣や卸売・小売業就業率が高い近隣の子どものCOV-DI-19罹患率が高いこと等を明らかにしてきました。現在、全国全数調査の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」個票データと地理情報システムを組み合わせ、子どもの身体活動や肥満と近隣環境の関連を解明しています。この研究は、究極の介護予防である「子ども健全な発育発達」に寄与すると信じ、研究を進めています。どうぞ、よろしく願っています。

■ キャンパスカレンダー

秋学期	
2024年 11月 2日(土)	同志社クローバー祭
3日(日)	
3日(日)	スポーツフェスティバル
4日(月)	
23日(土)	振替休日(休日)
26日(火)	
27日(水)	勤労感謝の日(休日)
28日(木)	
29日(金)	創立記念行事週間 (休講)
12月 24日(火)	
25日(水)	創立記念日(休日)
25日(水)	
2025年 1月 5日(日)	冬期休暇開始
6日(月)	
13日(月)	冬期休暇終了
20日(月)	
21日(火)	面接授業再開
23日(木)	
2月 10日(月)	面接授業最終日
12日(水)～18日(火)	
3月上旬	期末試験開始
14日(金)	
20日(木)	期末試験終了
21日(金)	
22日(土)	創業者永眠の日
31日(月)	
22日(土)	秋学期集中講義期間
22日(土)	
31日(月)	卒業可否通知
31日(月)	
	在学成績通知
	秋学期卒業式・ 学位授与式
	秋学期終了

■ 2024年度 教員父母連絡会役員構成について

教員父母連絡会役員について、未定となっております新役員が決まりましたのでお知らせいたします。2024年度はこのメンバーで運営いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

役職	氏名	役職	氏名
父母役員	会長(3年)	委員(1年)	太田 純子
	副会長(2年)	委員(1年)	橋本 佳美
	委員/監事(4年)	副会長	竹田 正樹
	委員(4年)	会計	岩田 昌太郎
	委員(3年)	委員	築瀬 康
教員役員	委員(2年)	委員	高橋 克毅
	委員(2年)		

■ 教員父母連絡会寄贈図書

磐上館のラーニング・テリア(自習室)に常置します。

書籍名
アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト1 運動器の機能と構造 スポーツ動作の機能解剖
アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト2 スポーツ科学概論
アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト3 スポーツ医学概論
科学者という仕事 獨創性はどのように生まれるのか
科学という考え方 アインシュタインの宇宙
分析者のためのデータ解釈学入門 データの本質をとらえる技術
認知科学講座1 心と身体
認知科学講座2 心と脳
Performance Psychology: Perception, Action, Cognition, and Emotion
地政学入門
文明の衝突と21世紀の日本
日本語の歴史
2020年6月30日にまたここで会おう 瀧本哲史伝説の東大講義
最新温泉医学

ご意見ご感想は電話またはe-mailでお寄せください

スポーツ健康科学部教員父母連絡会事務局
(スポーツ健康科学部事務室内)
Tel.0774-65-6030 e-mailはこちら▶



スポーツ健康科学部ホームページ
▶教員父母連絡会のページから
随時最新情報を発信しております



スポーツ健康科学部生の活躍

〔アーチェリー部〕
◎2024年度(7月までの戦績を抜粋)
◎第59回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦
団体3位・関根沙英(2022年度生)、鈴木さくら(2023年度生)、林若奈(2024年度生)



〔空手道部〕
◎第68回全日本大学学生選手権大会
女子組手 準優勝・釜つばさ(2022年度生)
◎第53回関西学生サッカー選手権大会
関西優勝・前田一勇(2022年度生)、波多野崇史(2022年度生)、林山陽太(2023年度生)、長野太亮(2023年度生)
〔水泳部〕
◎世界水泳ドーハ2024
女子800m自由形6位・梶本一花(2022年度生)
女子400m個人メドレー8位・梶本一花
◎OWSオーシャンズカップ2024
女子10km 優勝・梶本一花
〔ソフトテニス部〕
◎令和6年度関西学生ソフトテニス春季リーグ戦



関西優勝・長根新太(2023年度生)、塚本星弥(2024年度生)
◎令和6年度西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会
西日本3位(男子)・雑賀智彦(2021年度生)、長根新太、塚本星弥
西日本3位(女子)・白鳥和(2022年度生)、馬淵詩(2023年度生)
◎令和6年度西日本学生ソフトテニス選手権大会
西日本2位・長根新太
〔体操競技部〕
◎第74回西日本学生体操競技選手権大会
新体操の部 西日本3位・田中千紗仁(2024年度生)
〔トライアスロン部〕
◎2023日本学生デュアスロン選手権
団体優勝・橋本華(2022年度生)、尾崎ほの花(2022年度生)、峠和花奈(2023年度生)
◎2024西日本学生トライアスロン選手権
尾道因島大会
西日本3位・岡田空大(2020年度生)、尾崎ほの花
〔バスケットボール部男子〕
◎第2回全日本大学バスケットボール新人選



関西予選
関西優勝・柄澤日向(2023年度生)、西村陽太郎(2023年度生)
〔フィギュアスケート部〕
◎第96回日本学生氷上競技選手権大会
6位入賞、団体2位・本田ルカス剛史(2021年度生)
◎ISU世界ジュニアフィギュアスケート選手権
世界大会出場・本田ルカス剛史、清水咲衣(2024年度生)
〔ボウリング部〕
◎第55回全日本大学個人ボウリング選手権大会
ハイゲーム受賞・熊凌汰(2023年度生)
◎第63回関西学生春季ボウリングリーグ戦
アベック優勝・斉藤翔(2021年度生)、岡田将明(2022年度生)、熊凌汰、石本恵梨奈(2022年度生)、渡辺希哩(2024年度生)
◎2024IBF世界ユースボウリング選手権大会
世界大会出場・渡辺希哩

スポーツアトム編集部
スポーツアトム編集部(体育会情宣機関)では各部活を局員が担当し、日々体育会の活動取材し、紙面やHPにて発信しています。「カレッジスポーツを広めたい」という思いから、全ての作業に全力を注ぎ、これからも活動していきます。詳しくはHPをご覧ください。
<http://doshisha-atom.net/>

〔ラグビー部〕
◎世界学生選手権2024(7人制ラグビー)3位・上嶋友也(2023年度生)



〔ボート部〕
◎第9回西日本選手権競漕大会
男子舵手なしフォア2位・茶内宥斗(2024年度生)
女子舵手なしレクオドルブル優勝・児嶋奎(2022年度生)、金谷りさ(2023年度生)
◎全日本ローイング選手権大会
女子ペア優勝・東野花(2023年度生)
女子ペア優勝・東野花
女子エイト4位入賞・児嶋奎、金谷りさ、東野花
女子ダブルスカル7位入賞・児嶋奎
◎2024年度関西選手権競漕大会
女子ダブルスカル優勝・児嶋奎

DO FIELD 22

Doshisha
University

DO-FIELD【ドゥ・フィールド】同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 第22号 2024年11月発行
【編集・発行】同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学スポーツ健康科学部事務室内
【デザイン】柳原広行(株式会社デザイン) 【制作・印刷】株式会社デザイン Tel.0774-65-6030 Fax.0774-65-6029 e-mail:jt-spoin@mail.doshisha.ac.jp